



関東甲信越ブロックのHIV医療体制整備

研究分担者 茂呂 寛

新潟大学医歯学総合病院 感染管理部 准教授

研究要旨

本研究では、北関東・甲信越ブロックにおけるHIV診療体制の均てん化を基盤として、長期療養を見据えた診療上の課題について整理し、地域内での対応力向上を目的とした取り組みを進めた。その過程で、症例検討会や多職種連携の枠組みを通じた情報共有が、診療水準の維持・向上に有効であることが確認された。今後は、人材育成を軸とした継続的な学習機会の確保と、地域の実情に即した診療体制の構築を通じて、持続可能なHIV診療体制の発展を図ることが重要である。

A. 研究目的

関東・甲信越ブロック内において、HIV/AIDS診療に必要とされる基礎的な知識の普及を図り、医療水準の向上に結び付ける。さらに、医療機関同士の連携を強めると共に、長期療養時代を見据え、拠点病院以外における症例の受け入れ体制を整備する。

B. 研究方法

1) HIV/エイズ症例の動向と診療実態の把握

関東・甲信越ブロック内におけるHIV/エイズ診療の実情を把握する目的で、エイズ治療拠点病院を対象にアンケート調査を実施した。

2) HIV/エイズ診療体制の均てん化への取り組み

中核拠点病院連絡協議会、医療従事者を対象とした講演会、研修会、検討会を企画・開催し、人的交流と共に経験と知識の共有を図った。さらに、各都県で中核拠点病院を中心にHIV診療水準の向上を目的とした啓発及び教育活動を進めた。

3) HIV基礎知識の啓発活動

一般層を対象とし、HIV感染症に関する最新知識の普及と早期発見に向けたスクリーニング検査の促進を目的に、各自治体との協力の下で、地域毎の特性を活かした啓発活動を企画した。

<倫理面への配慮>

アンケート調査の実施、臨床研究、講演会や検討会での症例提示にあたり、匿名化を徹底するなど、個人情報の保護に十分な配慮を行った。

C. 研究結果

1) HIV/エイズ症例の動向と診療実態

エイズ治療拠点病院に対するアンケートの回答率は100%であった。ブロック全体での全受診者数は、令和7年度の調査で1214例、うち薬害被害者は28例であった。

2) 会議・講習会・研修会の開催状況

- ・関東甲信越HIV感染症連携会議
- ・令和7年度関東・甲信越ブロック都県・エイズ治療拠点病院等連絡会議
- ・北関東・甲信越HIV感染症症例検討会
- ・その他、職種別の連絡会議など

3) 地域における活動

HIV診療の基礎的事項を伝える出張研修については、Web形式で実施し、事前に希望のあった医療機関を対象に、医師および看護師による講演を1セットとして、同一内容の研修を計4回配信した。これらの取り組みにより、各施設におけるHIV感染症に関する知識の定着が進み、今後の症例受け入れが円滑になることが期待される。

D. 考察

長期療養に伴う課題としては、C型肝炎治療への対応、歯科診療および透析医療体制の確保、生活習慣病管理、メンタルヘルス支援、整形外科領域およびリハビリテーション体制の充実、悪性疾患のスクリーニングなど、多岐にわたる分野での対応が引き

続き求められている。これらの課題に対して、ブロック内の網羅的な状況把握を継続するとともに、肝移植や重粒子線治療といった先進医療についても、必要時に治療選択肢として円滑に活用できるよう、症例検討会等の機会を通じて情報共有および周知を進めていく方針とした。

一方、北関東・甲信越地区ではHIV症例数が比較的限られており、個々の症例に対して丁寧な診療を行いやすい反面、医療者側の診療経験が蓄積されにくいという側面も有している。このため、症例検討会や多職種連携の場を活用し、臨床経験や対応の工夫を共有する取り組みを継続する必要性が示唆された。

地域において実効性のあるHIV診療体制を構築・維持していくためには、対応可能な医療機関の裾野を広げるとともに、診療を担う医療者の確保および育成が重要な課題である。ブロック拠点病院として、これらの課題に主体的に取り組み、地域全体の診療基盤を支えていく役割が求められる。また、HIV感染症を特別視することなく、無理なく地域で受け入れられる社会的環境の醸成も重要であり、医療従事者のみならず一般層を対象とした啓発活動の意義は引き続き大きい。

本研究期間においては、パンデミックを経た社会状況の変化を受け、現地参加型の会合や研修が徐々に再開され、対面での意見交換や人的交流の機会が増加してきている。一方で、これまでに定着したWeb会議やリモート形式の研修についても、その利便性や効率性を踏まえ、目的や参加者の範囲に応じて継続的に活用されている。

このように、現地開催とリモート開催を状況に応じて使い分ける運営形態が定着しつつあり、県境を越えた連携や多職種間の情報共有を、より柔軟かつ実効的に進める基盤が整いつつある。今後は、直接的な交流による関係構築の利点と、移動負担を抑えた情報共有の利点を適切に組み合わせながら、ブロック内連携の質をさらに高めていくことが重要である。

これらの経験を通じて得られた知見や体制整備の工夫を、今後のHIV診療における貴重な資産として活用できるよう、引き続きブロック内連携を強化し、柔軟かつ持続可能な診療体制の構築に取り組んでいく必要がある。

E. 結論

本研究を通じて、北関東・甲信越ブロックにおけ

るHIV診療は、個々の医療機関の対応に依存する段階から、地域全体で支える体制へと着実に移行しつつあることが示された。とりわけ、症例検討会や職種別連絡会議を軸とした継続的な情報共有は、診療水準の均てん化と多職種連携の深化に寄与してきた。

今後の課題としては、こうした枠組みを一過性の取り組みに終わらせることなく、次世代の医療者に引き継いでいくことである。現地開催とリモート開催を適切に使い分けながら、学習と交流の機会を安定的に確保し、地域の実情に即した診療体制を維持・発展させていくことが求められる。ブロック拠点病院として、今後も課題抽出と改善を繰り返し、持続可能なHIV診療体制の構築に継続して取り組んでいく。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

Dynamics of iron metabolism in patients with bloodstream infections : a time-course clinical study Hiroshi Moro, Yuuki Bamba, Kei Nagano, Mariko Hakamata, Hideyuki Ogata, Satoshi Shibata, Hiromi Cho, Nobumasa Aoki, Mizuho Sato, Yasuyoshi Ohshima …Scientific Reports 13 (1) 2023.

Bacterial profiles detected in ventilator-associated pneumonia in Japan : A systematic review Hiroshi Moro, Nobumasa Aoki, Hiroyuki Matsumoto, Kazuya Tone, Hisayuki Shuto, Kosaku Komiya, Toshiaki Kikuchi, Nobuaki Shime Respiratory Investigation 62 (3) 365-368 May 2024.

Doxycycline pre-exposure prophylaxis prevents sexually transmitted infections without affecting vaginal bacterial flora in female sex workers, Seitaro Abe, Daisuke Mizushima, Naokatsu Ando, Akira Kawashima, Haruka Uemura, Satoshi Shibata, Hiroshi Moro, Toshiaki Kikuchi, Hiroyuki Gatanaga, Shinichi Oka, Daisuke Shiojiri JAC Antimicrob Resist. 2025 Apr 9;7 (2) : dlaf054. doi : 10.1093/jacamr/dlaf054. eCollection Apr 2025.

The Iron-infection Axis Revisited : From Mechanistic Insights to Therapeutic Frontiers,

Hiroshi Moro 2025 Nov;31 (11) : 102818. doi :
10.1016/j.jiac.2025.102818. Epub Sep 25 2025.

2. 学会発表

院内肺炎における empiric therapy の最適化について 茂呂寛 第97回日本感染症学会総会 2023年4月28日

成人肺炎診療ガイドライン2024の改訂ポイント（HAP・NHCAP）茂呂寛 第73回日本感染症学会東日本地方会学術集会 / 第71回日本化学療法学会東日本支部総会 合同学会 2024年10月18日

Pneumococcal Vaccination Strategies for Older Adults in Japan : A Systematic Review of PPSV23 RCTs and Recent Perspectives on Conjugate Vaccines, Hiroshi Moro, Nobumasa Aoki, Yuuki Bamba, Satoshi Shibata, Ikumi Yamagishi, Masahiro Ui, Hayato Tsuruma, Mariko Hakamata, Hiromi Cho, Mizuho Sato, Toshiaki Kikuchi 19th Vaccine Congress Sep 8 2025.

シンポジウム15・Life Course Approach の視点から見た予防接種「成人の侵襲性肺炎球菌感染症予防」茂呂寛 第74回日本感染症学会 東日本地方会学術集会 2025年9月26日

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし